

農畜産業振興機構・国産牛肉新需要創出対策事業の実施団体内定

農畜産業振興機構の国産牛肉新需要創出対策事業(所要額Ⅱ6億3千万)を実施する団体がこのほど内定した。同事業は、商品性創出事業Ⅱ生産から販売に至る関係者で組織された協議会の開催、マーケティングリサーチ、訴求ポイントの科学的検証、ニーズに応じた生産の確保、国内外の販路開拓等を支援▽実証事業Ⅱ国内外の実需者(小売・外食等)に対する調理法の提案、低需要部位を使った加工品の試作、部分肉の入札販売会の開催等を支援▽普及事業Ⅱモデル地域の現地調査、成果の普及等を支援Ⅰの3つの事業を行う。実施団体と事業内容は次のとおり。

ホクレン農業協同組合(交付予定額1300万円、品種Ⅱ乳用種) 北海道肉用牛生産者協議会と道立畜産試験場との共同で、過去の枝肉格付データを用いた高付加価値牛肉の特徴分析を行い、プレミアム規格の牛肉について国内はもとより、タイ等向けに商品開発・商談会を開催、低需要部位の付加価値を高めるための加工品の試作等。▽十勝清水町農業協同組合(2700万円、同) 十勝清水町内の生産者、J A、行政及び商工会と帯広畜産大学が共同で、「プレミアム十勝若牛」の基準策定に向けた科学的検証、ホテル等へのニーズ調査を実施し、低需要部位等の新商品を開発、十勝若牛のバリエーションをより拡大。▽全国開拓農業協同組合連合会(900万円、同) 北海道チクレン及び東日本・西日本の3ブロックに分かれ、生協の実需を含む赤身牛肉促進協議会が、肉色、肉量等の科学的検証に基づく生産体制を確保、FCP講習会、消費者ニーズに応じた加工品の開発。▽全国農業協同組合連合会 高知県本部(200万円、褐毛和種) 土佐和牛推進協議会と愛知県及び宮崎県のスーパー並びに高知県内の生協や非チェーン系飲食店との共同で、「土佐あか牛の塊肉焼き」を提案、牛肉の新たな楽しみ方や土佐あか牛の特徴を活かした販売拡大。▽全国輸入食肉事業協同組合連合会(3億9400万円、乳用種) 全開連、全農ミートフーズ等とニッシングルメビーフ(株)との共同で組合員向けに家庭用レシピや包装を工夫した新商品を開発提案し、乳用種牛肉の新たな利用シーンを作成。▽首都圏食肉卸売業者協同組合(1200万円、乳用種、黒毛和種、交雑種) J A沖縄、J A新いわて岩手奥中山等と首都圏卸の組合員であるミートコンパニオン、スターゼン等が共同で、黒毛和種(経産牛)及び乳用種牛肉の科学的成分分析等に基づいた部分肉入札販売会の開催と低需要部位を使った買参人への商品提案、黒毛和種3等級、交雑種の熟成肉の試作等。▽(株)全国肉用牛振興基金協会(3200万円、日本短角種、褐毛和種) 生産から消費までの関係者と試験研究機関で組織された地方特定品種牛肉新需要創出協議会が、北海道、青森、秋田及び岩手県の地方特定品種の牛肉について、赤身牛肉のうまみ成分等の分析、実需者ニーズに即した出荷体制構築に向けた検討、FCP講習会、合同商談会の開催等。▽公益財団法人日本食肉消費総合センター(同400万円、普及推進) 本事業で取り組まれた実績について調査分析し、成果を普及。